

**平成 29 年度
流通魚介類の PCB、有機スズ等汚染実態調査(概要)**

PCB 等の化学物質については、流通魚介類の汚染状況を把握するため調査を実施している。

平成 29 年度の結果は以下のとおりである。

1 調査の概要

(1) 平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月まで

(2) 調査検体及び検体数

中央卸売市場に流通する魚介類の可食部のべ 700 検体

(3) 調査対象物質

PCB、TBTO、TPT、ドリン類(3 種類)及びクロルデン類 (5 種類)

※トリブチルスズ化合物 (TBT) については、昭和 60 年 4 月当時の厚生省通知により、市場流通する魚介類を対象に検査の実施が求められている TBTO を調査対象物質とした。

(4) 検査機関

東京都健康安全研究センター

一般財団法人 日本食品分析センター

2 調査結果

表 1 平成 29 年度流通魚介類の実態調査結果

単位:ppm(湿重量)

物質名		検体数	検出数	検出率 (%)	最大検出値	平均*
PCB		140	112	80.0	0.413	0.010
TBTO		120	34	28.3	0.030	0.001
TPT		120	80	66.7	0.030	0.005
ドリン類	アルドリン	40	0	0	—	—
	デイルドリン	40	1	2.5	0.002	0.000
	エントリン	40	0	0	—	—
クロルデン類	trans-クロルデン	40	2	5.0	0.005	0.000
	cis-クロルデン	40	3	7.5	0.004	0.000
	オキシクロルデン	40	0	0	—	—
	trans-ナクロル	40	0	0	—	—
	cis-ナクロル	40	2	5.0	0.002	0.000

※不検出 (ND) を 0 として算出した。

3 まとめ

- (1) PCB は 140 検体中 112 検体 (80.0%)、TBTO は 120 検体中 34 検体 (28.3%)、TPT は 120 検体中 80 検体 (66.7%) から検出された。
- (2) ドリン類 (3 種類) のうちディルドリンが 40 検体中 1 検体 (2.5%) 検出された。アルドリン及びエンドリンは検出されなかった。また、クロルデン類 (5 種類) のうち、trans-クロルデンが 40 検体中 2 検体 (5.0%)、cis-クロルデンが 40 検体中 3 検体 (7.5%)、cis-ノナクロルが 40 検体中 2 検体 (5.0%) から検出された。trans-ノナクロル、オキシクロルデンは検出されなかった。
- (3) PCB、TBTO、TPT、ドリン類及びクロルデン類の検出値は、いずれも食品衛生法の基準値等の範囲内であり、食品安全上問題となるものではなかった。

用語説明

PCB	ポリ塩化ビフェニルの略
TBTO	ビストリブチルスズオキシドの略、TBT 化合物のうちの一つ
TPT	トリフェニルスズの略、複数の物質がある TPT 化合物の総称
ドリン類	有機塩素系農薬
クロルデン類	有機塩素系農薬
ppm (ピーピーエム)	濃度の単位で 100 万分の 1 を表す。 この調査においては $\mu\text{g/g}$ と同じ意味